

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23320058

研究課題名(和文) 東アジア(日・中・韓)の絵入り刊本成立と展開に関する総合研究

研究課題名(英文) Research on the pictorial version of this establishment and deployment of East Asia (Japan, Korea, and China)

研究代表者

入口 敦志 (IRIGUCHI, Atsushi)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：80243872

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 16,100,000円

研究成果の概要(和文)：日中韓の17世紀までの絵入り刊本につき、6000件を超えるデータを集積することが出来た。これらの分析をとおり、論文発表、口頭発表、単行本の刊行などを行った。2015年10月17日に国際ワークショップ「東アジアの絵入り刊本」を主催した。そこでは、日中韓越の研究者を招聘して研究発表を行った。同時に日本と韓国の版画の技術者を招聘し、彫りと刷りの実演を行い、技術面からの見当も行った。更に、2015年10月13日から11月20日まで、国文学研究資料館において、特別展「韓国古版画博物館名品展」を開催した。東アジアの古版画を展示するものであったが、特に韓国の古版画については、日本で初めて紹介する展示となった。

研究成果の概要(英文)：Per picture input Kampon up to the 17th century of Japan, China and South Korea, we were able to integrate the data of more than 6,000. Through these analyzes, papers, oral presentations, and publication of the book was done. hosted the international workshop "East Asian painting enter Kampon" on October 17, 2015. There, he conducted a study announced invited researcher Yue Japan, China and South Korea. At the same time invited the Japan and South Korea of printmaking technician, performs a demonstration of carving and printing, it was also register from the technical side. In addition, up to November 20 from October 13, 2015, in Kokubungakukenyushiryokan, held a special exhibition, "South Korea old prints Museum Masterpieces Exhibition". This is, but in which was intended to exhibit the old prints of East Asia, especially for the old prints of Korea, it became the first introduction to the exhibition in Japan.

研究分野：日本近世文学

キーワード：絵入り刊本 版画 古版画 出版史

### 1. 研究開始当初の背景

日中韓の絵入刊本については、これまで総合的にとらえようとする研究は行われてこなかった。また、日中韓の絵入刊本に関する資料の所在についても把握が難しかった。よって本研究においては、これまで知られなかった絵入刊本の所在をリスト化することと、その分析をとおして、日本における中国、韓国の絵入刊本の影響が明らかに出来るのではないかと考えた。

中国で発明された印刷術は、その初期の段階から絵を伴っていたことが知られている。しかし、印刷術についての研究は、大蔵経や儒教の経書など文字を中心としたものであって、絵はその考察の対象とされてこなかった。しかし、実際の受容を検討してみると、直感的にわかる絵の影響はこれまでいわれてきたよりも、大きなものであると予想された。つまり、単なる書籍移動ではなく、お互いの文化にとって重要な意味を持つものであることがわかってきたのである。

### 2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ、二つの目標を定めた。

(1)日中韓の17世紀にいたるまでの絵入刊本年表を作成する。これについては、これまでほとんど作成されたことはなく、唯一『絵本年表』があるだけであった。それも、日本の17世紀以降のものに限定したものであって、東アジアの絵入刊本を研究するには十分なものではなかった。そこで、基礎資料として年表を作成することを第一の目標とした。

(2)(1)に基づいて、東アジアにおける絵入刊本の史的展開を明らかにするとともに、その中に日本の絵入刊本のありようを位置づける。

### 3. 研究の方法

(1)の作成のため、日本・中国・韓国で出版されている、絵入刊本に関する書籍や目録類を収集し、そこから関係する事項を採集した。採集したものは、コンピュータに入力し時代順に並べるなど整理する。また、各地の所蔵図書館に調査におもむき、実調査をとおして情報を収集する。実地に調査におもむいた、あるいは目録をとおして情報を収集した所蔵機関は下記の通りである。

国立国会図書館、東洋文庫、国立公文書館等の国内の所蔵機関。台湾大学、台湾国立故宮博物館文献館、韓国国立中央図書館、韓国古版画博物館、北京大学図書館、中国国家図書館、ホノルル美術館等の海外の所蔵機関。

(2)各地の所蔵図書館や美術館、あるいは研究者との交流をとおして情報を収集するとともに、絵入刊本に関する知見等につき、論議し研究を深める。

### 4. 研究成果

(1)については、日中韓の17世紀までの絵入刊本につき、6000件を超えるデータを集積

することが出来た。これらの分析をとおして、論文発表、口頭発表、単行本の刊行などを行った。また、このデータそのものを「絵入刊本年表」として発表する準備を行っている。

(2)については、論文、口頭、単行本による成果の発表を行った。

主な業績としては、花田富二夫により、ホノルル美術館に所蔵される仮名草子『伽婢子』が発見された。これは、これまで知られていなかった江戸版のものであり、現在知られる唯一の版であった。この新発見を学界で共有するため、急遽『仮名草子集成』に翻刻を入れることとし、出版した。

入口敦志は、海外において研究成果の発表を積極的に行った。特に韓国の韓国古版画博物館にて例年開催される古版画学術大会には毎年参加し、研究発表を行った。日中韓越の研究者があつまる国際的な学術会議であるため、各国の研究者と情報の交換を行うことが出来た。また、発表に関しては、各国の研究者から高く評価されている。その業績により、2015年11月には北京大学でのシンポジウムに招聘されることとなった。

また、入口は成果の一部を組み込む形で、単著『武家権力と文学』を出版した。そこでは、中国において形成された絵入刊本が、朝鮮半島を経由して日本に伝わり、どのように受容されたかを『帝鑑図説』を例として、明らかにした。これは、単に絵入刊本のみならず、建築・服飾・権力・宗教など多方面からの考察を含むもので、今後の絵入刊本研究の方向性を示したものであると評価されている。これにより、学習院大学に招聘され、『帝鑑図説』に関する講演を行った。

(3)更には、研究の進展に伴う各国の研究者との交流の深まりの中で、当初計画になかったベトナムの調査を行い、そこでの情報収集を行うことが出来た。その成果の発表として、最終年度に中国・韓国・ベトナム・日本の研究者を招聘して、国際ワークショップ(2015年10月17日、国文学研究資料館)を開催した。

(4)同じく、研究途上で知遇を得た韓国古版画博物館の韓禪學館長の協力を得て、韓国の古版画を中心とした東アジアの絵入刊本を紹介する『韓国古版画博物館名品展』を開催(2015年10月13日~11月20日、国文学研究資料館において)した。これは韓国の古版画を日本に紹介する初の展覧会となった。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

入口敦志,古活字版の黎明-相反する二つの面-,アジア遊学,査読無,2015,85-92

入口敦志,描かれた夢-吹き出し型の夢の誕生-,夢見る日本文化のパラダイム,査読無,2015,296-328

入口敦志,明清版本は日本においてどう和様化されたのか-日中韓の比較からみる十七世紀の諸相-,アジア遊学,査読無,2014,202-211

入口敦志,日光東照宮正面唐門彫刻小考,大日光 84,査読無,2014,34-43

入口敦志,権力と出版-『帝鑑図説』から見えてくること-,国文研ニュース 30,査読無,2013,1-4

入口敦志,ルポルタージュとしての仮名草子-時事性と出版-,HUMAN 3,査読無,2012,62-68

入口敦志,楼閣の唐破風-異世界表現の日中-,東亜文化的伝承と棄揚(浙江工商大学),査読無,2011,252-262

〔学会発表〕(計 11 件)

入口敦志,色刷り技術の伝播と断絶-見当から考えてみる-,第 7 回原州・世界古版画文化祭,20160527,韓国古版画博物館(韓国・原州)

入口敦志,全相平話五種(国立公文書館蔵)の刊年を疑う,2015 年東方印迹-中韓日雕版印刷国際学術検討会,20151128,北京大学(中国北京市),招待講演

入口敦志,全相平話五種(国立公文書館蔵)の刊年を疑う,国際ワークショップ東アジアの絵入刊本,20151017,国文学研究資料館(東京都立川市)

入口敦志,韓国版本の日本伝来-『三綱行実図』の和刻本と和訳本-,韓日古版画学術大会,20150703,韓国古版画博物館(韓国・原州)

入口敦志,日本の世俗版画,日韓古版画学術大会,20150705,韓国民族博物館(ソウル)

入口敦志,『帝鑑図説』について,連続講座『東アジア書誌学への招待』,20150309,学習院大学(東京都豊島区),招待講演

入口敦志,摩耶夫人の夢-夢の形象-,韓中日古版画国際学術大会,20140524,韓国古版画博物館(韓国・原州)

入口敦志,日本の木版刷り表紙模様について-嵯峨本を中心に-,韓・中・日古版画学術大会,20131010,韓国古版画博物館(韓国・原州)

入口敦志,絵入刊本の様式についての比較検討-『融通念仏縁起』を中心に-,国際シンポジウム韓・中・日古版画国際学術大会,20121012,韓国古版画博物館(韓国・原州)

入口敦志,日中韓勸誡図刊行考,国際シンポジウム日本文学の中の外国文学、外国文学としての日本文学,20120827,ハルビン工業大学(中国黒竜江省ハルビン市)

花田富二夫,東アジアの善書と江戸初期文学,国際シンポジウム日本文学の中の外国文学、外国文学としての日本文学,20120827,ハルビン工業大学(中国黒竜江省ハルビン市)

〔図書〕(計 7 件)

花田富二夫 他,仮名草子集成 第 55 巻,東京堂出版,2016,279

花田富二夫 他,仮名草子集成 第 54 巻,東京堂出版,2015,333

花田富二夫 入口敦志 他,仮名草子集成 第 53 巻,東京堂出版,2015,298

花田富二夫 入口敦志 他,仮名草子集成 第 52 巻,東京堂出版,2014,308

花田富二夫 他,仮名草子集成 第 51 巻,東京堂出版,2014,383

入口敦志,武家権力と文学 柳營連歌、『帝鑑図説』,ペリかん社,2013,292

花田富二夫 入口敦志 他,仮名草子集成 第 47 巻,東京堂出版,2011,167-184,185-218

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

入口 敦志(IRIGUCHI, Atsushi)  
国文学研究資料館・研究部・准教授  
研究者番号: 80243872

### (2) 研究分担者

花田 富二夫(HANADA, Fujio)  
ノースアジア大学・教養部・教授  
研究者番号: 00110205

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号:

### (4) 研究協力者

江本裕(EMOTO, Hiroshi)  
大妻女子大学・名誉教授

金永昊(KIM, Yongho)  
東北学院大学・准教授

勝又基(KATSUMATA, Motoi)  
明星大学・教授